



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 | (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

90.10.24

No. 3298

自衛隊海外派兵・天皇制復活絶対反対



総力で 自衛隊

自衛隊の海外派兵と天皇の即位儀式に反対する十・二〇シンポジウムは、右翼の集会破壊をうち破って成功裡にかちとられた。

早朝から会場の入口にたむろし、集会破壊をねらっていた右翼の敵対をものともせず参加者は「派兵反対」「天皇制復活

決然と反動にたちむかおう

中野委員長、基調提案

中野委員長が一時間にわたり基調提案をおこなった。

冒頭、「自衛隊の海外派兵、天皇即位儀式という歴史の分岐点にたつて日本労働者、人民は、最大の試練をむかえている。これに、たじろぎ、ひるみ屈服するのか、それと

動労千葉根絶攻撃粉砕！ 11月行動に総力起つ

基調提案をうけてパネラーの戸村政博氏(日本キリスト教団牧師)は「何が狙いか」というテーマで宗教家からの立場からかたられた。(機関誌・動労千葉・秋号を是非、参照されたい)

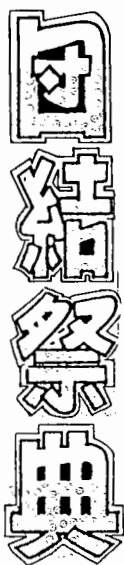
高島喜久男氏(労働運動評論家)、牧江寿子氏(教育労働者)は、学校現場や労働戦線内の課題と闘いについて自らの実践を踏まえ生き生きとかたられた。小西誠氏(軍事評論家)

は、自衛隊を取り巻く現実の姿を鮮明に暴露した。西村綾子氏(婦人民主クラブ全国協議会)は、「女性こそ反天皇、戦争反対の先頭に立つ」という決意に満ちた提起がされ、小森勝重氏(部落解放同盟長野県連三地区協青年部)から部落差別と天皇制、部落解放と労働運動の密接不可分な関係が判り易く提起され最後に「一般民、労働者の解放をかけた天皇決戦は、今までの腐敗、屈服を深め自らも差別者として支配されてきた歴史を断ち切る闘いである」と厳しく結ばれた。

討論では、五人の仲間から決意なり質問が出され基調や各位からの提起をより深めた。動労千葉からは、田中書記長が力づくよく「動労千葉根絶攻撃を許さず、来春にかけてストライキを含む組織の総力で闘う。この闘いと結合し十一月共同行動委員会の呼び掛けに全力で応えていきたい。」と訴え会場から大きな拍手をうけた。動労千葉から参加した五十名の組合員は、集会で得たものを職場に持ちかえり一人でも多くの者が結集するよう頑張ることを確認した。

11月3日開会 9:00

千葉公園サスラウド



家族とろってワイワイやろう